



～20周年記念植樹式～



職員お手製の
紅白スコップ



2024年3月31日(日)暮らしネット・えん20周年記念植樹式を行いました。

当日は天候にも恵まれ、各事業所から多くの職員が参加。グループリビングえんの森入居者、グループホームえん入居者、そして日頃からお世話になっているボランティアの方々も参加され、皆でノンアルコールシャンパンで乾杯!!20周年を祝いました。

小島代表より『あっという間の20年でした。今日の紅梅が大きくなるように、えんも増々ががんばります!』



介護が「産業」になると…!?

今年の桜は近頃珍しく遅く、満開の中入学式を迎えられた方も多かったことでしょう。それが過ぎると早くも初夏のような日差しです。

えんは、年度最後の3月31日に、20周年記念植樹を行いました。20年前この建物に移ってきたときの記念植樹の杏が2階の窓を超す高さに育ち、3月彼岸ごろには桜より色の濃い花を咲かせ、6月には熟した実をジャムにしてグループホームの朝食に添えます。これからの20年は、今までにまして厳しい世の中になりそうな予感がしますが、そうであればなおのこと介護福祉NPOの役割は大きくなるはずです。今回の記念植樹は紅梅。冬に耐えて咲く花にならねばと思います。

近年介護は「産業」に位置付けられ、日本生命、損保ジャパンなどが介護事業を買収、大きなシェアを占めるようになっていきます。それどころか米国ファンドが所有するデイサービスなどが市内にも見られるようになりました。介護保険が始まる時、非営利団体だけではサービス量が足りなくなると営利事業者の参入を認めましたが、最近では社会福祉法人の影が薄い。

「株式会社」だから質が悪いなどとは言えません。けれども基本的な目的は「利益を上げること」です。賃金や待遇の低さから人手不足は極限状態に近づく今、営利法人が利益を上げるために「からくり」が仕込まれています。たとえば損保ジャパンなどが実証実験したICT化による有料老人ホームの職員基準の緩和。ロボットなどを入れて介護職員を減らすことがこの度認められました。施設での夜間対応職員は原則1フロア1名(25床の場合)、転倒予防センサーが鳴っても他の人の介護をしていれば駆け付けられない。性急な緩和は介護現場をますます疲弊させるだけでしょう。

先日、高級有料老人ホームを見学しました。ダイルームにはグランドピアノ、あちこちに美しい花が飾られ、職員の言葉遣いも丁寧でした。利用料金は前払い金なしの場合、要介護5で月額65万円を超えます。夜勤体制は52室に対して介護職2名看護1名。看護職が夜勤帯において医療が必要な方を支えています。ちなみに9人の入居者に1名の夜勤体制のわがグループホームえんは、介護5なら月額18万円程度。それだって支払いが無理とあきらめる方の方が多い現実…。介護保険は「社会連帯の」制度です。サービス利用に使えるお金がないからと、介護サービスをあきらめさせる現状は間違っています。

代表理事 小島美里





院内集会に参加して、私たちができること



2024年3月8日に行われた「崖っぷちから突き落とされる介護保険～これではもたない、在宅も施設も～」の院内集会に参加、初めての経験と場所に緊張と、少しのワクワクがありました。

集会が始まるとワクワクは一瞬にして消えて、発言者の声に聞き入ってしまいました。オンラインで見るよりも発言者の強い思い、現場の声がひしひしと伝わり、介護保険は今どうなっているのか、これからどうなっていくのかを、もっと近い感覚、自分事だということ、自分にできることをしていきたいという感覚になりました。全国各地から集まったエネルギーをたくさん吸収した時間になりました。当日はオンラインで同時配信されていたのですが、リアルタイムで視聴していた方が1,000人を超えていると聞き、関心の高さにも驚きました。現場の声に共感することもあり、こうして声を上げられることにすごいなと感じ、現場の声を国や行政に届け続けたいという気持ちにもなりました。

そうは言っても、現場のヘルパーの私に何からできるのだろうか…、そう考えたときに、ケアサポートえんのミーティングで話があがったパブリックコメントのことを思い出しました。こうしたコメントなら私でもできると思い、さっそく試してみました。

今回の参加を通じて感じたのは、関心を寄せて自分にできることから取り組み、そして継続していくことが大事だと実感しました。
(ケアサポートえん／石田法子)

当日、厚労省の職員を前にした質疑応答は熱気ムンムン。厚労省側は事前に出された質問に対する回答を淡々と読み上げていくが、私には正直わかりづらく煙に巻かれているといった感。それを世話人の方々が補足してくれて理解することができ、私も「知識」という武器を持って行かないといけないと感じました。結局「基本報酬は下がるので加算でプラスして経営をしていって下さい」とのこと。3種類に及ぶ処遇改善加算は複雑で、利用者と契約を結ぶ際、怪訝な顔をされることもあります。加算の条件や介護職員や介護事業の置かれている状況をその都度説明していますが、どこまで理解していただけているのか、確信は持てません。また、利用者の負担が重くなるのも事実です。幸いえんは加算に値する環境が整えられるけれど、そんな事業所ばかりではないのです。

現場からの発言では、地方は提供範囲が広域なので移動時間がかかる。時間に間に合わせるために朝6時に家を出ることもあり、買物代行では20km離れたスーパーに行く。雪の日は雪かきからその日の業務が始まる、等々。こんな実情なのに、同じ建物内の居室を訪問するサービス付き高齢者向け住宅併設事業所と一緒にされては困ります。

以前保育園で公立保育園の民営化の話が持ち上がった時、署名、要望書作成、市に質疑応答集会を開いた事を思い出し、自分の子供と同じように訪問介護の現場を守らなければと思ったのでした。
(ケアサポートえん／石塚恭子)

NPO法人暮らしネット・えん 20年の歩みを振り返って

えんが NPO になって 20 年が経過した。81 歳の今まで、まさか現役で仕事をしていることなど想像だにしていなかったが、共にいられることに感謝しかない。

今えんの 20 年を振り返る時、その前の 10 数年を忘れるわけにはいかない。その時間がなければえんは生れてなかったのだから。1990 年頃、私たちは 2 人の全身性障がい者に出会った。地域で自立した在宅生活を送りたいという 2 人の願いに、ボランティアが集まり、介助だけでなく、地域での様々な活動と一緒に、「地域で共に」を実践してきた。しかしボランティアで行う限界を感じ、堀ノ内病院に在宅福祉部門として受け入れていただき、1996 年「ケアサポートステーション MOMO」開始。新座市の事業委託を受けプロとしての一步を踏み出した。そして NPO 法が成立し、介護保険が始まった後の 2003 年 NPO として再スタートした。

この間に培われた「介助（介護）する・されるの関係を越えて、地域で共に暮らす繋がりを創る」という思いが、えんに引き継がれ、今に至っている。ケアの質を高め、職員間の意思疎通を図るための研修やミーティング、コンサートなどの文化活動を通して地域の繋がりを深めることも。コロナ禍を経て昨年 4 年ぶりにコンサートを開催した時、懐かしい顔と溢れる人の波に、音楽が人を紡ぎ、えんが人を繋いでいることを実感した。

一方、介護をめぐる社会情勢は厳しく、弱小の介護事業所は閉鎖に追い込まれ、NPO 設立当初にお世話になった先輩 NPO も規模を縮小せざるを得ないと聞く。そんな中で経営のプロがいる訳でも、資金が潤沢にある訳でもない私たちにできることは、今までどおり目の前の地域の課題に真摯に向き合い、地域にとって必要なことを積み上げることだろう。介護保険は改悪を重ね、使い勝手の悪い制度になってしまった。それでも私たちは利用者・家族に寄り添い、慣れ親しんだ地域に暮らし続けられることを支援し、地域の方々に支えられ、今では介護保険・障がい福祉サービス他 8 事業、働く人 120 人の所帯となっている。

この先 20 年をどう生き抜いていくのか。働く人達の生活が守られなければ、利用者の生活を守ることはできない。事業所の閉鎖などあってはならないのだ。これまでもえんの役割として小島代表が社会的発言をリードしてきたが、黙っていても介護保険や障害者支援制度は衰退するのみ。何とか歯止めをかけるべく、皆で声を挙げていこう！

この先どんなに ICT が発達しても、人の営みは変わらない。「高齢になっても、障がいがあっても、この街で暮らし続けるために」人と人が繋がって、しぶとく地域で生き残っていかうではないか!

(暮らしネット・えん副代表／加藤真弓)

えんと私の20年

暮らしネットえん設立20周年を記念して、何かやらなくっちゃ!チラホラと声はきこえていたが、忙しさに紛れて日々が過ぎていった。こういう時黙ってないのが立ち上げメンバーでもある初代ケアサポートえん管理者の加藤真弓さんである。裏方は私がやるから…と一本釣りされ、20周年実行委員会の立ち上げと委員長を任された。各部署から実行委員を選出し、入職3ヶ月から20年以上まで計14名でのプロジェクトとなった。それぞれ意見を出し合い「利用者、地域に支えられて大きくなったえん」という想いで、どこへ向けて行かうかの目的を明確にした。決まったのが、記念植樹と、えんの「障害があっても高齢になっても地域で共に」の理念を伝え、これまでの経過、現在の事業全体の様子や紹介、えん職員・利用者・地域住民に向けた映像制作が決定した。

植樹式は3月31日の年度内ギリギリに実施(表紙参照)、映像の制作は、かつてえんを取材されたご縁から、元NHKディレクターの迫田朋子さんに協力をお願いした。

私が入職したのはえん設立1年後の2004年、子供が3歳になる前だった。大阪出身の私は、慣れない地での生活と知人さえもない中、毎日寂しい日々を過ごしていたが、えんに勤めてから同じ地域で暮らす利用者さん、共に働くヘルパーさんたち(お母さんもお姉さんも沢山いた)、保育園に通う子供の親同士の交流もあり、この新座という土地に慣れ、今は大好きな土地となった。思い出深い利用者さんやボランティアさん、共に働く仲間との別れもいっぱい経験した。悲しい悔しい嬉しい涙を流し、たくさん笑ってききた。

植樹式の最後に加藤副代表が「今から20年後、私はもうこの世にいないでしょう、空から見ていると思います」と話された。ボランティア時代からの30年の重さと、背中を見てきた先輩方がいつまでもそばにいてくれる訳ではないこと、これからえんを自分がどう関わっていくか、少しの不安と責任感。そんな私も今年で勤続20年目に入った。入職当時からずっとかかわってきた、えんができるきっかけになった全身性障がい者のお2人が地域で今も元気に過ごされている。この新座という地でえんがずっと根付いていけるよう、次の20年に向けてまずは自分が健康で元気にいたいと思う。

(ケアサポートえん／西本由美子)

第13回 まどかコンサート特別編 活弁『ローマの休日』



2024年3月24日(日)、「まどかコンサート」は、大盛況でした。千葉さんから「『ローマの休日』を活弁と生の音楽で」とのアイデアを頂戴したときのワクワク感とは裏腹に、まどかの間取りで40名が同時に映画を鑑賞するなんて本当にうまくいくの?と、一抹の不安を抱えながら準備を進めてきただけに、まどかの利用者さんやご家族はじめ、ご来場くださった皆さんの笑顔が何よりのご褒美となりました。『ローマの休日』という名画の魅力のみならず、千葉玲子さん、齋藤ちゃくらさんの息の合った語りと演奏に、参加者の皆さんが口々に「よかったー」と言ってくださり、4年ぶりの地域にまどかをひらくコンサートは幕をおろしました。

(スタッフ/北村洋子・権田歩・西川恭子・和知佳汰 イラスト/田島薫)



みなさまに
お楽しみいただけて
何よりでした。

左/齋藤ちゃくらさん(音楽) 右/千葉玲子さん(語り)

～ 寄せられた感想から ～

- ◆映画を見ている様な臨場感でした。音楽と語りが素晴らしかったです。久し振りのまどかコンサート、コロナや災害で実施されなかったけれど、これを機会にまた続けてほしいです。
- ◆石神に越してきて2年。散歩していて“まどか”を知りました。このような所があってこれから先も安心というか、いいな～と感じて帰ります。今日は本当にありがとうございました。ピアノの人も活弁士さんもおくろうさまでした。
- ◆昔、映画館で弁士つきで映画を見たことがあります。思い出しました。このような機会があろうとは思いませんでした。
- ◆公演100分と聞き、期待と不安でイッパイでしたが、始まるとすぐに映像と活弁が一体化した世界にひきこまれ、活弁士が側で語っているのを忘れる程で不思議な感覚でした。生音とのコラボが臨場感あふれてスバラシかった!若い頃に憧れたヘップバーンを久しぶりに堪能できました。

今年もお花見弁当作りました!

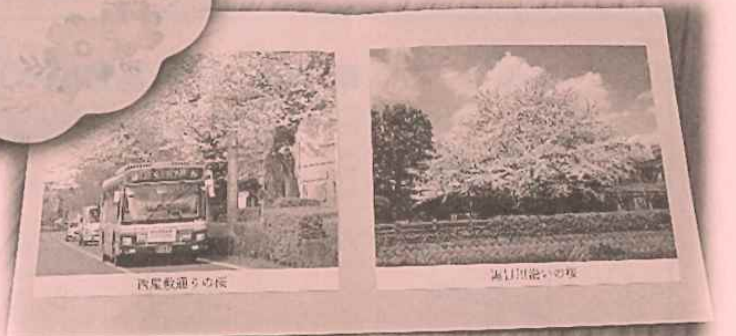
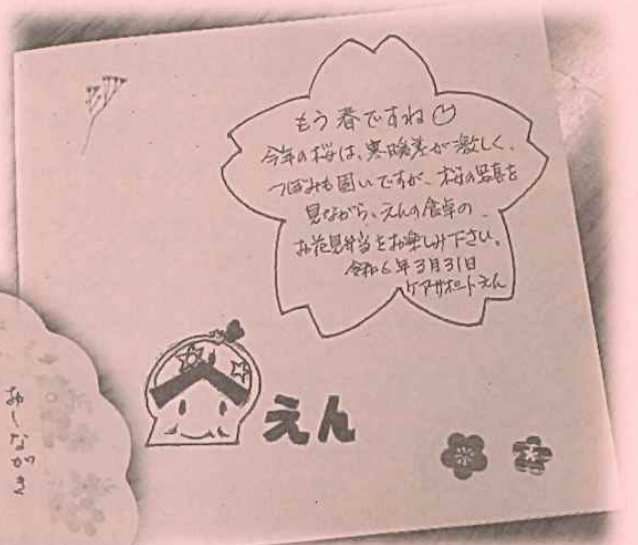
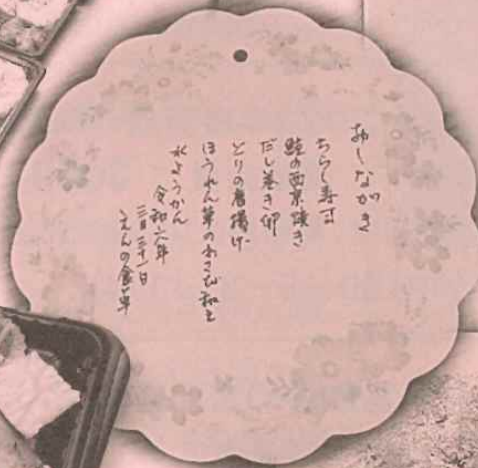
今年もお花見弁当の依頼がケアサポートえん(訪問介護)からありました。

95個とたくさんの注文が入り驚きと不安でした。最近の配食弁当の数は70~80個なので95個のお弁当箱を並べるスペースがなく、1台テーブルを持ち込みました。配達出発時間に間に合うのかハラハラしましたが、予定より1名増やし、時間も早めて作業開始。

この日、「えん 20周年行事の植樹式」が9時半から行われ、管理者が抜け出して出席しましたが、お弁当作りは問題なくスムーズに作業することができた上に、時間より少し早めにお花見弁当が完成し、ホッとしました!(^^)!

皆さんが「美味しかった」とおっしゃっていたと伺って、嬉しいです。

富山優子(えんの食卓)



お花見弁当、お手製おしながきとメッセージカード

● 第21回定例総会のお知らせ ●

日時：2024年6月23日(日) 場所：新座市立中央公民館体育室

13:30～15:30 定例総会 15:40～16:40 記念講演

記念講演 『今、障がい福祉は』



田口裕貴氏

社会保険労務士 NPO はるいろ理事 NPO 暮らしネット・えん監事

人材難や低い報酬に悩む障害福祉の現状とこれからの、重症心身障害児放課後等デイサービスにたずさわる立場からお話ししていただきます。

◆ 認知症電話相談のお知らせ ◆

認知症に関する悩みごと、介護のコツや生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

☎ 048-480-4150

認知症カフェえんの森 再開！

これまでは「認知症のことを地域の方に理解していただく」ことに主眼をおいてきましたが、再開を機に、ご本人と介護家族を中心にした集いとなります。参加を希望される方は、吉村または小島までお電話ください。

～新型コロナウイルス対策～

5類に変更となりましたが、変わらず感染防止対策につとめてまいります。



地域で暮らし続けていくために 2023年度新規・継続会員募集中！

正会員：1000円 賛助会員：3000円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

TEL:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:https://npenn.com/